

1 本年度の重点目標

「あい」を通して、「なりたい自分・つくりたい集団」へと成長する学校
～伝え、高め、認め、交わし、紡ぎ「合い」 子どもへの愛～

2 本年度の重点目標の具体化

- ・学ぶ力の育成<自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力の育成>
- ・豊かな心の育成<多様性を認め合い、相互承認の感度を高める>
- ・健やかな体の育成<体力向上と健康づくりの共通実践>
- ・教育環境の整備<学校教育の礎づくり>
- ・信頼される学校<家庭や地域とともにある学校づくり>

3 評価結果

分野	項目 No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成 状況	改善の方策	自己 評価の 適切さ	改善策 の 適切さ
重点目標	1	子どもは、難しいことでも自分から挑戦することができるか。	B	・保護者、職員共に低い回答となっている。人によって難しいと感じるレベルが違う可能性もある。「新しいことや難しいと感じること」「新しい問題や課題」に出会ったときなど、子どもがその瞬間に実感がもてるよう教師が関わっていく必要があるのではないかと考える。 ・授業の中で子どもが「新しい問題に出会った時」「難しいと感じている瞬間」を捉え、それに向かう姿勢を「価値付け」ていくことで、子どもが「これは難しいことにチャレンジするということなんだ」と実感できるように個々に働きかけていく。 ・他者評価される機会を増やすため「体育発表会の表現をブロックで見合う」「学習発表会に向けて取り組んでいる様子を他学年の先生に見てもらおう」等の場を設定したい。	A	A
	2	子どもは、友達と協力して物事に取り組むことができるか。	A	・学年間・異学年間でともに取り組む機会を多くもつことができた。特に保護者から異学年との交流に対する評価が高かった。異学年との交流により上級生としての時間をもつことができたり、幼稚園との交流を楽しんでいた様子から来年度以降も引き続き、縦横でつながり、協力して取り組むことができるようにしていく。	A	A
学ぶ力の育成	3	子どもは、授業や家庭学習で、進んで考えたり取り組んだりすることができるか。	A	・昨年度より保護者、職員とも肯定的な回答が多かった。学習に対して前向きに取り組むことができたり、課題を解決したりと自分なりに最後まで取り組むことができる児童が多い ・一方で自信がないこと、苦手なことに対してはやる前にあきらめてしまう傾向がある。学ぶことの楽しさや自分で工夫して考える力を身に付けていくようにしていく。	A	A
	/	子どもは、授業中に自分の考えや思いを伝えあいながら学ぶことができるか。	B	・「自分から」「進んで」「伝え合う」は児童・保護者・職員共に肯定的な回答が低くなっている。校内研究の授業づくりでは「問い」が原動力となり子どもが「話したい・考えたい」を生み出せるように話し合ってきた。「自分から」が課題である児童の実態と、授業づくりの視点は合致していたと考える。 ・しかしながら、教師からみた主体的に学ぶ姿が子ども自身の実感にはつながっていないので、教師の関わりが子どもの実感や自信に繋がるので、「つぶやき」「反応」「相槌」これなど全てを発言・参加と教師が捉えなおし「価値付け」ていくようにしていく。アンケートの結果のみに目を向けず、児童の実態として、本質的な部分で「話し合ったり伝えあったりしながら学ぶこと」ができているかどうかは検証が必要である。より資質能力が高まるように、子どもたちが協働的に学び合い、高まっている姿を目指すため、授業改善へアプローチしていきたい。	A	A

評価委員より	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが難しいことにも臆することなく、自分から挑戦する姿を育てていることに興味致しました。児童会館でも新しいことに挑戦する環境をつくることに腐心している。 ・難しいことでも自分から挑戦するのは時代性もある。周りが失敗しないようにしている。頑張っている姿を価値づけることが大事だと感じる。価値づけることで自分の気づいていない姿に気づくのではないだろうか。 ・個々の難しさの判断の捉え方に対し、一部の改善で終わらずに、発言できていない児童まで教師が見抜く力の育成を図ることで理解が深まっていくと感じる。年間の教育課程で時間が限られていると思いますが、先に進むための宿題結果の分析から振り返りなどで補完していくことが必要と感じられる。平均以上の教育はできていると感じられるが、より全生徒の育成に努めていただけると幸いである。 					
豊かな心の育成	5	子どもは、学校で自分の良さや友達の良さに気づいたり、友達に思いやりをもって接しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、職員、保護者共に肯定的な回答が多い。全体的に素直な子が多く、友達の良さに気づいて素直に表現したり、良さを認めて関わったりすることができている。 ・学級活動や宿泊を伴う学習の取組でも「学年みんなで協力しよう」「一緒に楽しもう」という雰囲気がある。 ・一方で他人の良くないところに気を取られたり厳しくなったり、人の気持ちを考えて発言や行動ができなかったりする姿も見られるため、全校朝会を文化的行事などで、子どもが自主的実践的な活動に挑戦できる時間として設けていく。高学年に手本を見せてもらう活動を通して認め合い・高め合いに繋がるように工夫していく。 	A	A
6	子どもは、自分から進んであいさつをしたり、相手や場面に合った言葉づかいで話したりすることができているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は肯定的な回答が高いものの、保護者、職員は低い回答となっている。子どもたちが主体となって行う挨拶活動を始めて2年がたつが、活動がないときは自分から挨拶ができない、挨拶を返さない姿がある ・挨拶活動の計画を見通しをもてられるよう、活動時期を部内で決めて提案する。また、委員会とも連携しながらあいさつの取組を進めていく。 	A	A	
7	子どもは、友達と協力して物事に取り組んだり、人の役に立とうと行動したりしているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や児童からの肯定的な回答が高い。行事を通して、どの学年も目的をもち、個々が成長を感じる姿が見られた。 ・義務教育学校への移行も考慮しながら、行事などを通して子どもが「なりたい自分」に向かって成長を実感でき、他者との認め合い、高め合いができる取り組みをしていく。 ・また、引き続き各学年・学級でがんばりカードを活用しながら、子どもが個人や学年のめあてを意識して取り組むことができるよう関わっていく。 	A	A	
評価委員より	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが互いの良さや違いを認め合い、思いやりの心をもっていることは素晴らしいことだと思う。友達と協力して物事に取り組んだり、人の役に立とうとする中で子どもたちは社会性を育てていくと感じる。 ・学校の良さや友達の良さの評価が高くなってよかった。自己肯定感がこれまで低かったので、高くなってきて安心した。環境づくりの良さだと感じる。 ・会釈はできる子は多いが、相手に伝わるあいさつができる子は減っている気がする。地域の方からの挨拶へは対応できているが自発的な挨拶ができている子とできていない子の挨拶が広まっていると感じる。児童委員会の関わりを増やすことができれば改善に繋がっていくかと思う。勤務時間の問題も多いかと思うが子どものために使える時間を増やせるように教育委員会全体へ申請いただければと思う。最終目標は教員がいなくても挨拶できる環境ですが基本の指導が不足している結果だと考える。 					

健やかな身体の育成	9	子どもは、自分から体を動かして、元気に遊ぶことができるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の途中からグラウンドが使用できなくなり、第2グラウンドへと場所が変更した。多目的室やポプラ教室を活用し運動できる機会を増やしてきたが、体を動かす習慣にまでは達していない。 ・高学年になると、体を動かす子と室内でゆっくり過ごしたい子の二極化が進んでいる。様々な遊び方を提示しても、室内派の子はなかなか休み時間に運動しようとしなため、体力向上の手立てが難しいと感じている。割り当ての日は担任から誘いかけたり、全員遊びを設定したりするなど、まずは週一回でも体を動かすようにする。 	A	A
	10	子どもは、健康で規則正しい生活をしているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホやゲームの使用時間が年々増えていっていること、また低年齢化が進んできていて、生活リズムや規則正しい生活に支障をきたしている。ネットモラルの学習も年数回行ったり、情報機器の使用に関する方向性も示していく。 ・学校生活のきまりを教師が折に触れて指導することで、子どもたちは時間を守って生活できている。次年度以降も、学校全体で足並みを揃えながら続けていきたい。 	A	A
	11	子どもは、けがや事故のないよう安全に気を付け生活することができるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・下校指導の形や時期を変更することで、下校の様子を見守りを強化していく。また子どもたちの安全指導は日常的に指導を続けていく。 ・季節に合わせて安全だよりを発行したり、安全面に関わる件はその都度すぐ一で指導をお願いするなど、情報を発信していく ・交通安全教室を通して、安全な生活の大切さや方法について学ぶ機会を設定できた。校内での大きな事故はなく、安全に気を付けて生活することができた。引き続き、教職員による日々の安全指導を行っていきたい。 	A	A
評価委員より	<ul style="list-style-type: none"> ・工事が入って制限がある中、学校では様々な工夫を凝らして子どもたちが体を動かす機会を増やしているのが素晴らしい。児童会館でも体を動かすことの楽しさを実感できるような活動を充実させ、子どもたちの心身の健やかな成長を促していきたい。 ・安心安全を守るために、保護者や地域を巻き込んでいくよいのでは。見守りの人員を頼むなど、地域でもできること関わることがあると思う。 ・義務教育学校への移行の影響もあるが多目的室に用意されたトランポリンの遊具が一部児童からは男児が独占して女児が入れないため、行きにくいと言った意見も耳にした。体育館で使用できる環境を検討いただいたり、使用時間や順序管理の仕組みで多くの児童が利用できる環境の構築が必要かと思う。多目的室遊具の評価は非常に高いと感じる。 ・義務教育学校になれるためにチャイムが減ったことで、低学年の規則正しい生活の構築が懸念される。 					
教育環境の整備	12	安心・安全な教育環境の整備や安全教育・指導を学校は行うことができるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・雪解け以降、第2グラウンドの表面処理を行う関係で使用できなくなる。子どもたちの遊び場所や運動の機会を確保するため、泉町公園を使用していく。それに伴って移動の際の見守りの配置を検討する。 ・廊下歩行は、一人一人がめあてを立てて年に2回振り返ることで、よりよい姿に向けて子どもたち自身が努力していた。また、教師が子どもの発達段階に応じて日常的に歩行の仕方を指導することができていた。子どもたち自身が今後も意識を続けていけるよう、振り返りを継続する。 	A	A
信頼される学校	13	学校は、必要な情報を適切に発信できているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを改訂し、より情報をわかりやすく伝える工夫をした。 ・各種たよりについて、すぐ一での発信し、スマホによる閲覧が可能になり、保護者が学校からの情報を確認しやすくなっている。 	A	A
	14	学校は、児童の実態や地域の特性を生かした、特色ある教育活動を展開できているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育活動の展開として、「総合的な学習の時間を活用した教育課程を推し進めていくこと」「生活科でも桜山を活用した授業が展開されていること」が、一つの特色と考えられる。今後、見直しを進めている体育発表会や、まこさく遊び、義務教育学校化に向けた取組も含め、特性や実態に合わせてブラッシュアップしていく中で、更に特色ある教育活動が展開していけると考える。 	A	A

- ・学校から発信される情報は保護者地域にとって重要であると思う。HPやすぐーるなど、様々な媒体を通して情報を発信することで、保護者など連携を強化し子どもたちの成長を共に支えていくことができると思う。
- ・すぐーるを中心に現校長先生になってから、児童の行動に配慮した配信が増えていると実感している。